

## プレミアム・ブランド企業の足元の株価動向

### POINT

- 2023年下期以降、これまで株価上昇率が大きかった銘柄を中心に反落。今後も当面、米国におけるリベンジ消費一巡や中国の景気動向を巡る懸念が株価の重荷となる可能性
- 中長期的な成長性や、特に欧州の高級ブランド企業の良いファンダメンタルズ(基礎的条件)には変わりがないとみる

### ■ これまで株価上昇率が大きかった銘柄を中心に反落

当ファンドの投資先であるプレミアム・ブランド企業の株価は、ゼロコロナ政策終了後の中国市場の回復期待などを背景に、2022年後半から2023年前半は、先進国株式の中でも相対的に良好なパフォーマンスを示しました。しかし、それ以降は、株式市場におけるAIブーム(プレミアム・ブランド企業はこれと関連が乏しい)や、米国の旺盛なリベンジ消費の一巡感や今後の消費減速懸念の高まり、中国の景気回復の遅れに対する懸念などが、多くのプレミアム・ブランド企業の株価にとって重荷となっています。

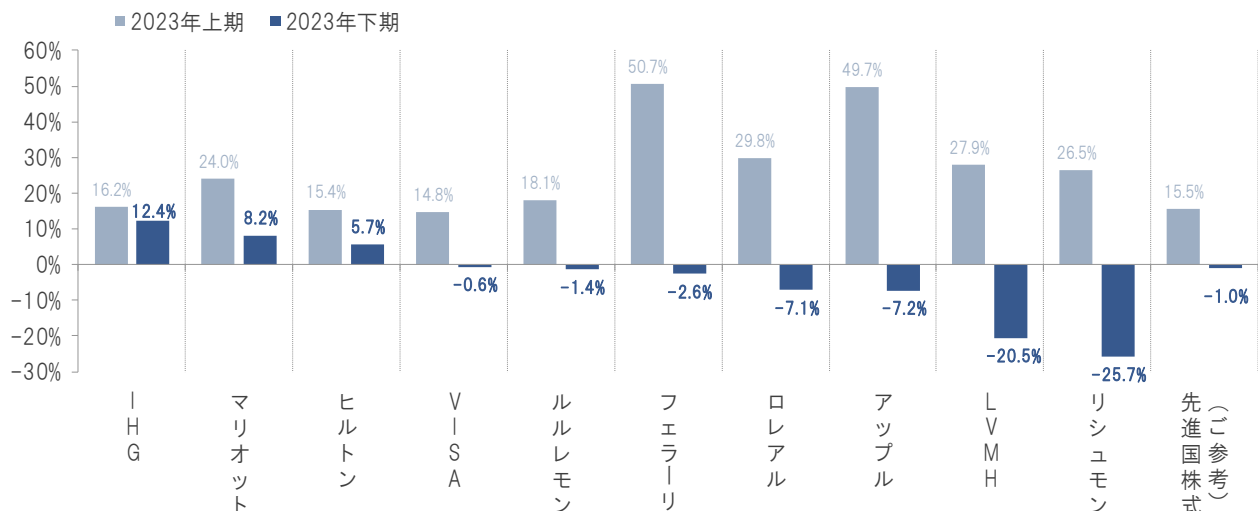
特に、高級ブランド企業をはじめこれまでの株価上昇率が大きかった銘柄については、2023年下期以降、足元(2023年10月11日)まででみると、相対的に株価の下落率が大きくなりました。

こうした市場動向を背景に、当ファンドの基準価額(分配金再投資後)は2023年年初来、足元(計算期間:2022年12月30日~2023年10月11日)まででみると+18.0%の上昇となりましたが、下期以降(同:2023年6月30日~10月11日)だけみると株式要因のマイナスが響き、-5.1%の下落となりました。

### 2023年年初来の主なプレミアム・ブランド企業の株価動向

現地通貨ベース、配当込み、

期間:2023年上期(2022年12月末~2023年6月末)および2023年下期(2023年6月末~足元(2023年10月11日))



※上記の主なプレミアム・ブランド企業は、当ファンドの2023年9月末時点の組入上位10銘柄です。IHGはインターコンチネンタル・ホテルズ・グループ、マリオットはマリオット・インターナショナル、ヒルトンはヒルトン・ワールドワイド・ホールディングス、ルレモンはルレモン・アスレティカ、LVMHはLVMHモエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトン、リシュモンはフィナンシエール・リシュモンの略です。 ※先進国株式:MSCI世界株価指数

出所:リフィニティブ an LSEG businessのデータを基にピクテ・ジャパン作成

当資料で言及した個別銘柄はファンドの投資対象候補銘柄の一例を紹介するものです。特定の銘柄の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、その価格動向等を示唆するものでもありません。

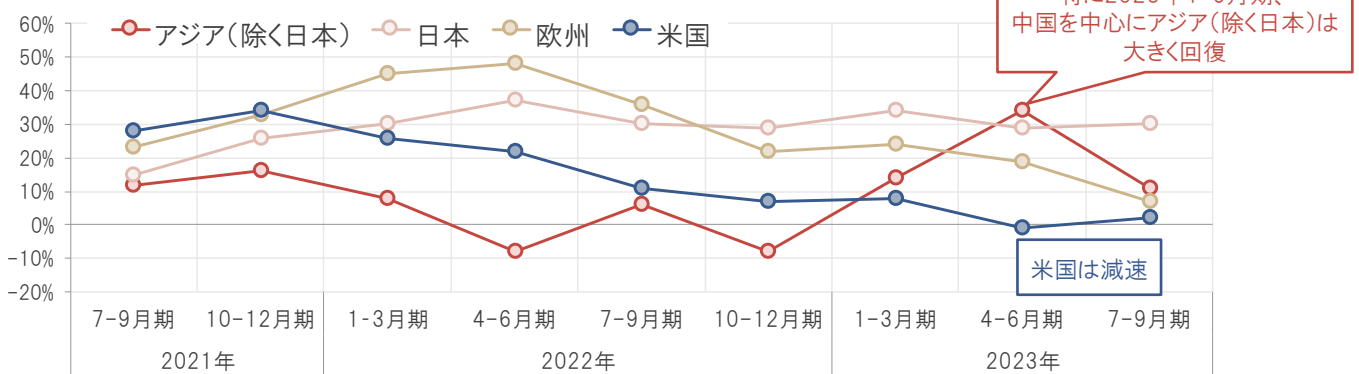
データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

## ■米国のリベンジ消費の一巡感や中国の景気回復の遅れなどが背景

足元の高級ブランド企業の株価反落の背景の1つには、これまで高級ブランド商品をはじめとしたプレミアム・ブランド商品に対する力強いリベンジ消費の動きをみせてきた米国で、リベンジ消費の一巡感がみられることに加えて、累積的な金融引き締めの影響から個人消費の減速を伴う景気減速も懸念されていることがあります。さらに、今年初めにゼロコロナ政策が解除されたことで大きく需要回復が期待されていた中国についても、景気動向に懸念が残ることなどが考えられます。ただし、中国については、比較的景気動向の影響を受けにくい富裕層を中心にプレミアム・ブランド商品やサービスに対する需要は依然として旺盛であるとみられます。実際、高級ブランド企業の2023年前半の決算では、アジア(除く日本)における販売の回復が示されました。

### (例) LVMHモエ ヘネシー・ルイ ヴイトンの地域別にみた売上高成長率(前年同期比)の推移

四半期、期間:2021年7-9月期~2023年7-9月期、為替変動等の影響を除くベース



※ご参考:地域別売上高構成比(2023年1-9月期実績)は、米国24%、欧州(フランス+欧州(除くフランス))24%、アジア(除く日本)32%、日本7%、その他13%(会社資料より) 出所:会社資料を基にピクテ・ジャパン作成  
当資料で言及した個別銘柄はファンドの投資対象候補銘柄の一例を紹介するものです。特定の銘柄の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、その価格動向等を示唆するものでもありません。

## ■「体験」・「経験」の価値重視の流れを受けて、トラベル関連などには回復期待も

高級ブランド商品をはじめとしたプレミアム・ブランド商品の購入といった「モノ消費」だけでなく、「体験」・「経験」といった価値を重視する消費トレンドは根強く、トラベル・レジャー関連分野については、回復基調が続くとみられます。

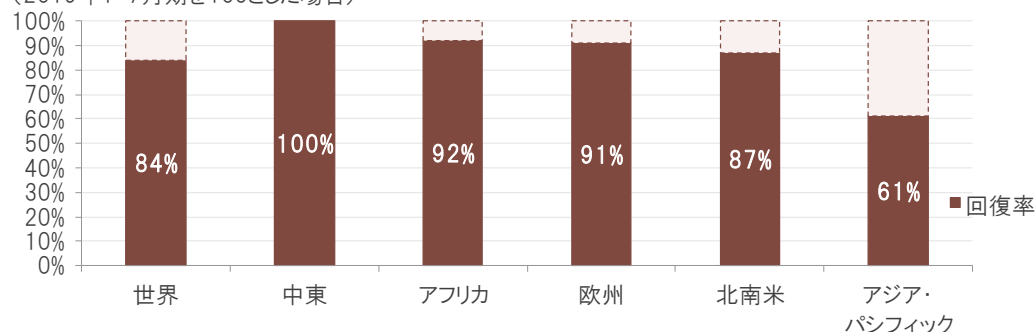
中国当局は、今年2月以降、中国から海外への団体旅行を段階的に緩和しており、8月には日本、韓国、オーストラリア、米国、ドイツ、英国などをはじめとする78の国と地域についても解禁しました。

また、中国のみならず、世界的にみても海外旅行者数はコロナ前の水準にまでは回復しておらず、今後も回復余地があるとみています。ただし、足元の中東情勢の緊迫化の動向については、世界的な海外渡航の流れにマイナスの影響を及ぼす可能性もあるため、注視していく必要があるとも考えます。

### コロナ前の水準と比較した海外旅行者数の回復状況 |

#### 2023年1-7月期(到着数ベース)の回復率 (2019年1-7月期比(コロナ前))

(2019年1-7月期を100とした場合)



出所:国連世界観光機構(UNWTO)のデータを基にピクテ・ジャパン作成

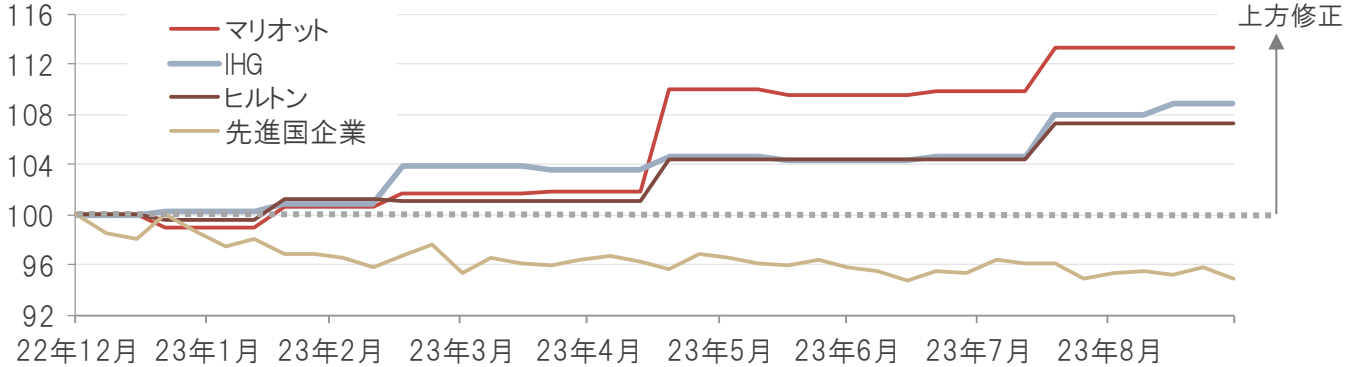
データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

なお、トラベル関連分野の代表格であるホテル運営企業については、旺盛な宿泊需要を背景に宿泊料金の引き上げ実施と客室稼働率の改善に加えて、自社株買いの実施などをを受けて、2023年度の1株当たり利益(EPS)の予想値(I/B/E/S集計アナリスト予想値)は、上方修正傾向が続いています。

**(例) 主要ホテル運営企業の2023年度1株当たり利益(EPS)予想の推移**

米ドルベース、週次、期間:2022年12月30日~2023年9月29日

(2022年12月30日=100として指数化)



※マリオットはマリオット・インターナショナル、ヒルトンはヒルトン・ワールドワイド・ホールディングス、IHGはインターコンチネンタル・ホテルズ・グループの略 ※先進国企業:MSCI世界株価指数 ※予想はすべてI/B/E/S集計アナリスト予想値 出所:リフィニティブ an LSEG businessのデータを基にピクテ・ジャパン作成 当資料で言及した個別銘柄はファンドの投資対象候補銘柄の一例を紹介するものです。特定の銘柄の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、その価格動向等を示唆するものでもありません。

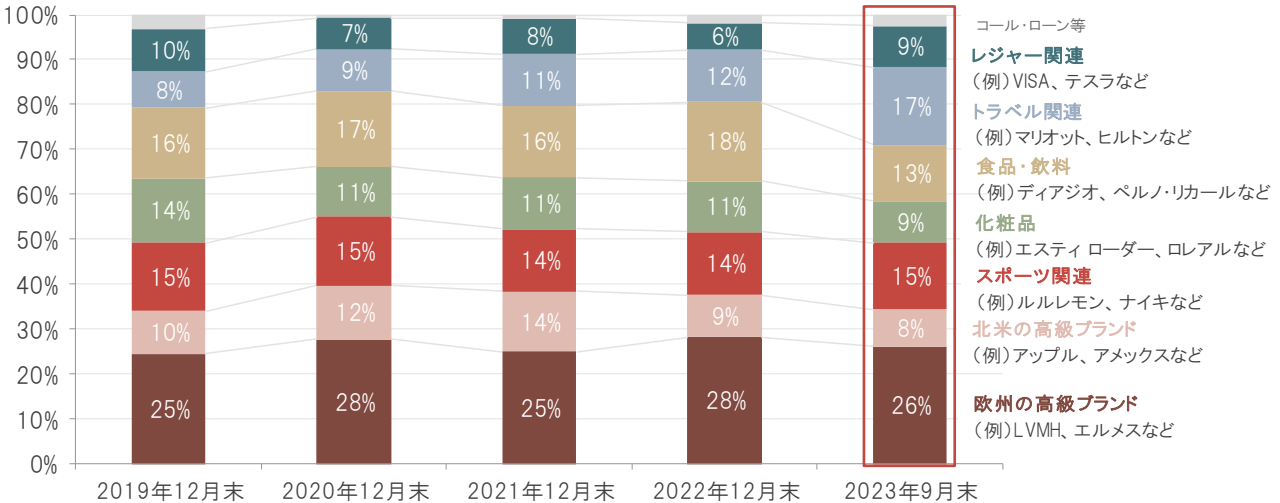
**■ 足元では、特にトラベル関連の組入比率を引き上げ**

当ファンドの足元のポートフォリオにおいては、消費者の旺盛な旅行・レジャー需要を背景に今後も回復基調が続くと期待される「トラベル関連」のホテル運営企業の組入比率を引き上げています。ただし、前述の通り、中東情勢の動向を注視していく必要もあると考えます。

一方、欧州をはじめとした高級ブランドについては、引き続き底堅い需要が見込まれるものの、力強いリベンジ消費の動きが一巡し、通常の成長ペースに収れんしていく中で、成長ペースは減速するとみられます。そのため、これまで株価が大きく上昇してきた銘柄を中心に一部を売却して利益を確定するなどの調整を行っています。また、食品・飲料については、高級酒の主力市場である北米では当面回復が期待しにくいと考えられることから、組入比率を大きく引き下げています。 ※2023年9月末時点の状況。

**投資分野別組入比率の推移<sup>注</sup>**

2019年~2022年の各12月末および2023年9月末時点



注:投資分野の区分はピクテによる独自の分類です。今後、変更される可能性があります。 ※組入比率は、ピクテ・プレミアム・ブランド・ファンド(3カ月決算型)のマザーファンドである、ピクテ・プレミアム・ブランド・マザーファンドの状況です。 ※四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。 ※LVMHはLVMHモエ ヘネシー ルイ ヴイトン、エルメスはエルメス・インターナショナル、アメックスはアメリカン・エキスプレス、ルレモンはルレモン・アスレチカ、マリオットはマリオット・インターナショナル、ヒルトンは、ヒルトン・ワールドワイド・ホールディングスの略 当資料で言及した個別銘柄はファンドの投資対象候補銘柄の一例を紹介するものです。特定の銘柄の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、その価格動向等を示唆するものでもありません。 データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

## 当ファンドの組入上位10銘柄の推移

2019年～2022年の各12月末および2023年9月末時点

2019年12月末	(投資分野)	2020年12月末	(投資分野)	2021年12月末	(投資分野)	2022年12月末	(投資分野)	2023年9月末	(投資分野)		
1	ナイキ	スポーツ 関連	1	LVMH	欧州の 高級ブランド	1	マリオット	トラベル 関連	1	マリオット	トラベル 関連
2	ペルノ リカール	食品・飲料	2	ロレアル	化粧品	2	アップル	北米の 高級ブランド	2	VISA	レジャー 関連
3	アメックス	北米の 高級ブランド	3	フェラーリ	欧州の 高級ブランド	3	VISA	レジャー 関連	3	LVMH	欧州の 高級ブランド
4	ロレアル	化粧品	4	エシロール	欧州の 高級ブランド	4	エシロール	欧州の 高級ブランド	4	マリオット	トラベル 関連
5	エルメス	欧州の 高級ブランド	5	アメックス	北米の 高級ブランド	5	エスティ ローダー	化粧品	5	フェラーリ	欧州の 高級ブランド
6	LVMH	欧州の 高級ブランド	6	マリオット	トラベル 関連	6	LVMH	欧州の 高級ブランド	6	エシロール	欧州の 高級ブランド
7	マリオット	トラベル 関連	7	アップル	北米の 高級ブランド	7	ロレアル	化粧品	7	リシュモン	欧州の 高級ブランド
8	エシロール	欧州の 高級ブランド	8	エスティ ローダー	化粧品	8	ヒルトン	トラベル 関連	8	ヒルトン	トラベル 関連
9	資生堂	化粧品	9	テスラ	レジャー 関連	9	リシュモン	欧州の 高級ブランド	9	ロレアル	化粧品
10	エスティ ローダー	化粧品	10	ナイキ	スポーツ 関連	10	アメックス	北米の 高級ブランド	10	ナイキ	スポーツ 関連

上位10銘柄中、3銘柄が  
トラベル関連

※投資分野の区分はピクテによる独自の分類です。今後、変更される可能性があります。 ※組入上位10銘柄は、ピクテ・プレミアム・ブランド・ファンド(3ヵ月決算型)のマザーファンドである、ピクテ・プレミアム・ブランド・マザーファンドの状況です。 ※LVMHはLVMHモエ ヘネシー・ルイ ヴィトン、エルメスはエルメス・インターナショナル、エシロールはエシロール ルックスオティカ、リシュモンはフィナンシエール・リシュモン、アメックスはアメリカン・エキスプレス、ルルレモンはルルレモン・アスレティカ、マリオットはマリオット・インターナショナル、ヒルトンは、ヒルトン・ワールドワイド・ホールディングス、IHGはインターコンチネンタル・ホテルズ・グループの略  
当資料で言及した個別銘柄はファンドの投資対象候補銘柄の一例を紹介するものです。特定の銘柄の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、その価格動向等を示唆するものでもありません。

## ■ 短期的な株価の下落には警戒も、中長期的な成長性への見方には変わりなし

今後、プレミアム・ブランド商品やサービスに対する力強いリベンジ消費の動きは一巡し、通常の成長ペースに収れんしていくと想定されます。こうした中で、相対的に高い利益率を示してきた高級ブランド企業などを中心に、底堅い需要は続く予想される一方、売上・利益の成長ペースは減速する可能性があり、短期的に株価にとってマイナス材料となることが懸念されます。

一方、中東情勢の動向には注視しつつも、世界的な海外旅行の本格的な回復が期待されます。また、回復が遅れてきたスポーツ関連などの分野については在庫調整が進んでいることが確認されており、業績は底打ち・改善に向かうと予想されます。こうした点は、今後のプラス材料となると考えます。

中長期的にみれば、中国をはじめとしたアジア新興国の消費者の購買力の向上が成長ドライバーとなると期待されることに加え、顧客層に景気変動の影響を相対的に受けにくい富裕層が多いことなどが、底堅い需要動向を下支えするとの見方には変わりありません。

また、欧州の高級ブランド企業については、長い歴史を有する企業が多く存在します。長い歴史の中では経済危機などを幾度も乗り越えてきた実績があるとともに、いつの時代も多くの消費者を魅了する商品を提供し続けてきました。これは、優れた経営力があるからこそ実現できると考えられます。こうしたことから、欧州の高級ブランド企業には、強力な価格決定力が実現する高収益性に加えて、健全な財務基盤を持つ優良企業が多いのが特徴です。世界経済や市場動向の先行き不透明感が高まる中で、こうした銘柄は投資家の注目を集める可能性があると考えられ、ポートフォリオの中核的な存在としての位置づけには変わりありません。

※将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。

## 設定来の当ファンドの運用状況

円ベース、日次、期間:2006年6月30日(設定日)~2023年10月11日

(2006年6月30日=10,000円)



※当ファンドの基準価額および当ファンドの基準価額(分配金再投資後):基準価額は1万口当たり、実質的な信託報酬等控除後。基準価額(分配金再投資後)は、購入時手数料等を考慮せず、税引前分配金を再投資した場合の評価額を表します。

※先進国株式:MSCI世界株価指数(配当込み)、基準価額の算出に合わせて1営業日前株価、当日為替で円換算しています。

出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

## 投資リスク

### [基準価額の変動要因]

- ファンドは、実質的に株式等に投資しますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている株式の価格変動等(外国証券には為替変動リスクもあります。)により変動し、下落する場合があります。
- したがって、**投資者の皆様の投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様には帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。**

<p>株式投資リスク (価格変動リスク、 信用リスク)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ファンドは、実質的に株式に投資しますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている株式の価格変動の影響を受けます。</li> <li>●株式の価格は、政治経済情勢、発行企業の業績・信用状況、市場の需給等を反映して変動し、短期的または長期的に大きく下落することがあります。</li> <li>●特定の業種・テーマに絞った銘柄選定を行いますので、平均的な株式市場の動きと比べて異なる動きをする場合やその価格変動が大きい場合があります。</li> </ul>
<p>為替変動リスク</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ファンドは、実質的に外貨建資産に投資するため、対円との為替変動リスクがあります。</li> <li>●円高局面は基準価額の下落要因、円安局面は基準価額の上昇要因となります。</li> </ul>

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

### [その他の留意点]

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。

## ファンドの特色

<詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください>

- 主に世界のプレミアム・ブランド企業の株式に投資します
- 特定の銘柄、国や通貨に集中せず、分散投資します
- 3か月に1回決算を行い、収益分配方針に基づき分配を行います

●毎年2月、5月、8月、11月の各10日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

一 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

一 収益分配金額は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。

原則として決算時の基準価額が1万円を超えている場合は、1万円を超える部分の額の範囲内で分配金額を決定します(1万円を超える部分の額が少額の場合には、分配を行わないこともあります)。また、原則として決算時の基準価額が1万円未満の場合は、分配を行いません。

一 留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

### [収益分配金に関する留意事項]

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

※ファミリーファンド方式で運用を行います。

※実質組入外貨建資産は、原則として為替ヘッジを行いません。ただし、為替ヘッジが必要と判断した場合は為替ヘッジを行うことがあります。

※資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

## 手続・手数料等

### [お申込みメモ]

購入単位	販売会社が定める1円または1口(当初元本1口=1円)の整数倍の単位とします。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。(ファンドの基準価額は1万円当たりで表示しています。)
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
購入・換金の申込不可日	ロンドン証券取引所またはジュネーブの銀行の休業日においては、購入・換金のお申込みはできません。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口換金には制限を設ける場合があります。
信託期間	2006年6月30日(当初設定日)から無期限とします。
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には信託が終了(繰上償還)となる場合があります。
決算日	毎年2月、5月、8月、11月の各10日(休業日の場合は翌営業日)とします。
収益分配	年4回の決算時に、収益分配方針に基づき分配を行います。 ※ファンドには収益分配金を受取る「一般コース」と収益分配金が税引後無手数料で再投資される「自動けいぞく投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。

### [ファンドの費用]

#### 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	3.3%(税抜3.0%)の手数料率を上限として、販売会社が独自に定める率を購入価額に乗じて得た額とします。(詳しくは、販売会社にてご確認ください。)
信託財産留保額	ありません。

#### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	毎日、信託財産の純資産総額に年 <b>1.65%</b> (税抜1.5%)の率を乗じて得た額とします。 運用管理費用(信託報酬)は毎日計上(ファンドの基準価額に反映)され、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。 <b>[運用管理費用(信託報酬)の配分(税抜)]</b>						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>委託会社</th> <th>販売会社</th> <th>受託会社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年率0.7%</td> <td>年率0.7%</td> <td>年率0.1%</td> </tr> </tbody> </table>	委託会社	販売会社	受託会社	年率0.7%	年率0.7%	年率0.1%
委託会社	販売会社	受託会社					
年率0.7%	年率0.7%	年率0.1%					
	なお、委託会社の運用管理費用(信託報酬)には、マザーファンドの運用指図に関する権限の委託先に係る投資顧問会社への報酬が含まれています。						
その他の費用・手数料	毎日計上される監査費用を含む信託事務に要する諸費用(信託財産の純資産総額の年率 <b>0.055%</b> (税抜0.05%)相当を上限とした額)ならびに組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等および外国における資産の保管等に要する費用等(これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。)は、そのつど信託財産から支払われます。						

※当該費用の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

### [税金]

- 税金は表に記載の時期に適用されます。
- 以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税 および地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して <b>20.315%</b>
換金(解約)時 および償還時	所得税 および地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して <b>20.315%</b>

※少額投資非課税制度「愛称:NISA(ニーサ)」について

NISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※外貨建資産への投資により外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※上記は、当資料発行日現在のもので、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。



## 委託会社、その他の関係法人の概要

委託会社	ピクテ・ジャパン株式会社(ファンドの運用の指図を行う者) 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第380号	【ホームページ・携帯サイト(基準価額)】 <a href="https://www.pictet.co.jp">https://www.pictet.co.jp</a>
加入協会	一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会	
受託会社	三井住友信託銀行株式会社(ファンドの財産の保管および管理を行う者) 〈再信託受託会社: 株式会社日本カストディ銀行〉	
投資顧問会社	ピクテ・アセット・マネジメント・エス・エイ、ピクテ・アセット・マネジメント・リミテッド(マザーファンドの外国株式等の運用指図を行う者)	
販売会社	下記の販売会社一覧をご覧ください。(募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求受付ならびに収益分配金、償還金および一部解約代金の支払いを行う者)	

## 販売会社一覧

### 投資信託説明書(交付目論見書)等のご請求・お申込先

商号等			加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
いちよし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第24号	○	○		
SMBC日興証券株式会社(ダイレクトコース専用)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券(注1)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
OKB証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第191号	○			
九州FG証券株式会社	金融商品取引業者	九州財務局長(金商)第18号	○			
極東証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第65号	○			○
きらぼしライフデザイン証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3198号	○			
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2938号	○			
四国アライアンス証券株式会社	金融商品取引業者	四国財務局長(金商)第21号	○			
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○
東海東京証券株式会社(注2)	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
とうほう証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長(金商)第36号	○			
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○			○
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第134号	○			
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
株式会社伊予銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第2号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社大垣共立銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第3号	○		○	
株式会社京都銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社きらぼし銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第53号	○		○	
株式会社きらぼし銀行 (委託金融商品取引業者 きらぼしライフデザイン証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第53号	○		○	
株式会社群馬銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第46号	○		○	
スルガ銀行株式会社	登録金融機関	東海財務局長(登金)第8号	○			
株式会社千葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第39号	○		○	
株式会社東邦銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第7号	○			
株式会社東和銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第60号	○			
株式会社肥後銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第3号	○			
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社北海道銀行(注3)	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第1号	○		○	
株式会社北國銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第5号	○		○	
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	
株式会社三菱UFJ銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
株式会社三菱UFJ銀行 (委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○



## 販売会社一覧(つづき)

商号等	加入協会					
	登録金融機関	関東財務局長(登金)第33号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第33号	○	○	○	
株式会社ゆうちょ銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第611号	○			
株式会社横浜銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第36号	○		○	

(注1) 株式会社SBI証券は、上記の他に一般社団法人日本STO協会・日本商品先物取引協会にも加入しております。

(注2) 東海東京証券株式会社は、上記の他に一般社団法人日本STO協会にも加入しております。

(注3) 株式会社北海道銀行では、新規買付のお申込みは取扱いません。

当資料で使用したMSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

### 当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ・ジャパン株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。●投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります)に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様は投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。●運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。